



一般社団法人 **日本LD学会**
Japan Academy of Learning Disabilities

会 報 第131号

一般社団法人 日本LD学会 事務局（業務委託先）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社

URL <https://www.jald.or.jp>

- ・巻頭言：受験上の配慮のこれまでとこれから
- ・第33回大会（四国）開催報告
- ・第33回大会（四国）印象記
- ・〈研究集会特集〉第8回研究集会（沖縄）事前講義
- ・〈連続講座1〉第10回 家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト
- ・〈連続講座2〉第10回 GIGA スクール時代における特別支援教育
- ・委員会リレー企画 規約等整備委員会
- ・PATIO～実践の最前線～
- ・事務局からのお知らせ

受験上の配慮のこれまでとこれから

九州大学

立 脇 洋 介

2011年に大学入試センター試験で発達障害の受験生に対して受験上の配慮が開始されてから、10年以上が経過しました。初年度は96名だった利用者が、昨年度には507名までに増加しました。また、提供される配慮も多様化しています。当初から「拡大文字問題」「注意事項の文書による伝達」「別室受験」「チェック解答」「時間延長」がありました。現在ではデジタル耳栓や読書補助具、タブレットによる問題閲覧、リスニングや数学など科目指定での時間延長も申請できるようになっています。さらに、受験上の配慮は大学入学共通テストから各大学の個別試験、高校の定期テストや高校入試にも拡大しています。

このように、受験上の配慮は量・質ともに大きく発展し、発達障害のある受験生の進学に貢献してきましたが、さらなる改善が期待される点もあります。第一に、試験自体の負担増加という問題です。2025年度の共通テストから新たに「情報」が加わるため、1.5倍の時間延長では、全試験時

間が12時間にもなります。また、英語リーディングの単語数は、共通テストに変更後、約1.3倍に増加しました。受験上の配慮を講じて、試験自体の負担が大きくなればその効果は十分に発揮されません。障害のある受験生も受けるという前提で設計する、試験のユニバーサルデザインが求められます。さらに、受験上の配慮は、苦手な部分を補うことしかできません。例えば、筆記試験の代わりに口述試験で学力を評価すれば読字・書字障害がある人も配慮なしで実力を発揮できると考えられます。文部科学省が発表した令和5年度大学入学者選抜実施要項では「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」に「多様な背景を持つ者を対象とする選抜」が追加されました。多様な背景として、家庭環境、居住地域、国籍などがあげられていますが、将来的には障害のある受験生の良さをしっかりと評価できる選抜が導入されることが期待されます。